

## 参考資料 6

### サッポロバレー（北海道札幌市）

#### 1. サッポロバレーの概要

【集積状況】札幌市内のアプリケーション・システム開発及び関連サービス企業約 300 社（2000 年）、総売上高約 2,000 億円

【歴史】1976 年「マイコン研究会」結成を情報ベンチャー元年とし、北大の優秀な技術者による起業、ハドソン等の成長企業の登場を経て、90 年代には賃料が安い札幌駅北口周辺に集積が進む。

#### 【特徴】

- ①経験を積んだ 40 歳代経営者、技術者、大学教授等の人的なコミュニティが古くから重層的に形成されており、企業ネットワークがその上に成り立っている。
- ②アプリケーション開発等技術指向の企業が中心
- ③企業ネットワークを活かして、共同開発等の連携が行われたり、企業間活動を促進する BizCafe が設立されるなど、集積の効果が出つつある。

[図表 各地 IT ベンチャー集積との比較（集積状況）]

| 集積名称    | サッポロバレー                      | 渋谷ビットバレー                                    | 福岡 D2K                          |
|---------|------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------|
| 集積地域    | JR 札幌駅北口を中心に企業ネットワークは市街地へ拡大  | 渋谷・青山・赤坂                                    | 福岡大名地区                          |
| 集積規模    | 28 社（北口駅周辺）                  | 渋谷・青山・赤坂 245 社                              | D2K 地区約 30 社                    |
| 周辺規模    | 札幌市 253 事業所<br>売上 1,911 億円   | 東京 23 区 2,590 事業所<br>売上 48,620 億円           | 福岡市 252 事業所<br>売上 2,193 億円      |
| 中心企業    | アプリケーション開発等                  | コンテンツ制作及びネットビジネス                            | コンテンツ制作中心<br>一部ネットビジネス          |
| 需要      | 域外市場                         | 地元及び全国市場                                    | 地元及び全国市場                        |
| 競争      | まだ少ない                        | ネットサービス分野で激しい                               | まだ少ない                           |
| 投入資源    | 地元人材の投入<br>北大工学部教授の関与<br>資本少 | 情報、アイデア、資金等豊富<br>起業環境が整う                    | 九芸大出身クリエイター等地元人材<br>資本少         |
| 関連・支援産業 | 需要創出型支援産業一部<br>ビジネス支援機関少ない   | インフラ、メディア、ファッション等支援産業のほか、NPO、インキュベータ等重層的に揃う | ファッション等コンテンツ系がある。<br>その他支援機関少ない |

資料：日本政策投資銀行北海道支店

## 2. 事業推進体制について

### 【整備方針】

他のITベンチャーとは異なり、大学（教授）との結びつきが強い。今後は、現在の教授個人レベルでの交流から組織レベルの交流へと発展し、より一層の事業創出のきっかけとなる産学交流を目指している。

### 【事業推進方策】

もともと、サッポロバレーの企業ネットワークは1970年代にまで遡り、IT経営者、大学教授、既存企業技術者。その他支援機関関係者が重層的に結びついたコミュニティが形成されていた。その後、業界団体が設立し、企業間交流が促進されるとともに、1986年の「札幌テクノパーク」の開発で、大手メーカーの研究開発部門の誘致に成功し、更に集積が高まった。この集積から、スピナウトが相次ぎ、企業間の分業、ネットワークの深化へと繋がっている。

## 3. 具体的な事業への取り組み

- ・1996年に、それまで事業等で交流のあった企業経営者、大学教授、技術者等が地域密着型の任意団体であるNCF（Network Community Forum）を立ち上げ、札幌市狸小路商店街の活性化ワーキンググループなど、地域に密着した事業を行う。
- ・2000年6月には、元NCF事務局が土台となって、札幌駅北口にBizCafeが設立し、地場大企業等の支援のもと、サッポロバレーの人脈が中心となり、事業シーズの発掘・創出、交流の場の提供を目的とした活動が行われている。

## 4. 成功の要因

【地元からの人材調達】北海道大学卒業生など、地元根付く技術者層を獲得

【重層的なネットワーク】マイコン研究会からBizCafeに至るまでに域内で蓄積された幅広いネットワーク

【産学連携】北大卒業生、大学教授とのコネクションを活かした産学連携

【自社開発指向】道内市場は小さい一方で都心の大市场から離れている、地理的デメリットを技術で競争力を維持する戦略

## 5. 現在の課題

- ①ネットワークの規模及び範囲が小さく、ネットワークの分野、世代で一部に偏りがみられる。
- ②単なる交流だけではなく、共同事業や合併など、事業の結びつけを行い、集積企業の成長のきっかけとする。
- ③現在のコア企業の成長の維持
- ④新規企業支援

## 6. 韓国の事例から得られる、課題への方策

- ①域内ネットワークの拡充と性質の異なる国内他地域との連携
- ②韓国K A I S T（韓国高等科学技術院）が事業創出支援機関として有効に機能している理由としては、
  - i）事業創出を目的とし、事業創出の専門部がある
  - ii）予算の自由度が高い
  - iii）事業に応じたきめ細かな対応が可能
  - iv）着実な実績の積み重ねサッポロバレーにおいても、今後事業創出の専門部隊の拡充、各機関との連携を含めた効率的な活用等が考えられる。
- ③政府による先端需要、実験的プロジェクトの実施により、企業が有する高度技術等の事業化機会の提供

## 《参考 テヘランバレー、テドクバレー（韓国）》

### 1. テヘランバレー、テドクバレーの概要

【地域】ソウルにあり市場への近接性や金融、法財務サービス等の集積するソウル・テヘランバレーと研究効果の事業化が進むテドク・テクノバレーの二核集積構造

【歴史】97年経済危機をきっかけに人材の流動化が進み、財閥から新産業へ優秀な人材が流入

【近況】2000年春のKOSDAQ指数の急激な下落により株式市場への資金流入が止まっており、VCでは投資先の絞込みが進み、一時の創業ブームは沈静化

【特徴】2地域は互いに機能分担し、継続的に事業を創出する仕組みを形成

### 2. 2地域の連携体制について

#### 【技術分野の棲み分け】

テヘランバレーを中心とするソウルは、高速通信インフラを活用する通信、ゲーム等のアプリケーションに強みがある。特にインターネット普及等により市場が成長しており、コンテンツ層にもネットサービス等を中心に進出している。一方テドク・テクノバレーでは、官民機関の研究成果を基に創業した企業が多く、インフラ、中間層分野に傾斜している。

#### 【機能分担及び地域間交流】

K A I S T（韓国高等科学技術院）やE T R I（電子技術研究所）等研究開発施設の集積が進むテドク地域では、研究成果の事業化が進み、集積した研究機関の周辺に最近5年程度で1,000社近くが創業している。一方、企業が成長するにつれ市場規模、雇用、VC等事業支援環境のより優れるテヘランバレーに移転する企業もみられる。（例：E T R Iでは、300人以上がスピナウトして100社を起業したが、半分がテヘランバレーに進出）。

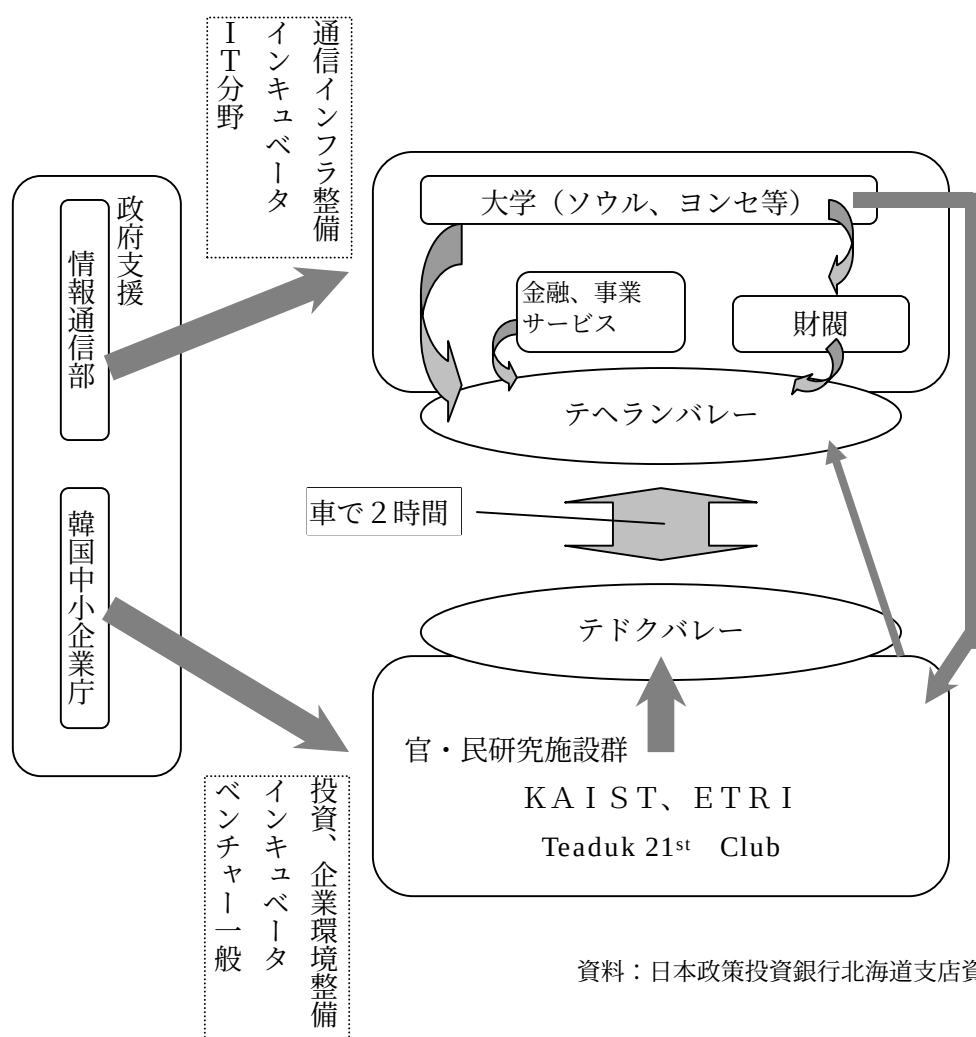
[図表 テヘラン・バレーとテドク・バレーの比較]

|                 | テヘランバレー                       | テドクバレー                     |
|-----------------|-------------------------------|----------------------------|
| 立地              | ソウル市、人口1,200万人                | テジュン市、人口140万人              |
| 特徴              | 金融街、高速通信インフラ整備地区周辺にITベンチャー群集積 | 研究開発施設集積地区に、技術指向の各分野の起業が創業 |
| ITベンチャー数        | 1,500社                        | 200社                       |
| 研究機関数           | 特になし                          | 49                         |
| ベンチャー・研究機関等従業員数 | 数万人                           | 12,000人                    |
| 研究スタッフ数         | N/A                           | 3,000人以上                   |

|          |                                                         |                                               |
|----------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 集積状況     | 最近5年程度で急速に集積。同地区には製造ベンチャー等も立地。                          | 最近5～6年で1,000社創業。多数がテヘランバレーに進出。                |
| 人的ネットワーク | 386世代（30歳代、80年代学生運動参加、60年代生まれ）。財閥・金融機関出身。ソウル・ヨンセ等大学との連携 | KAIST、ETRI 出身、Taeduk21CLUB（交流組織）              |
| 技術分野     | アプリケーション、コンテンツ                                          | 中間層、ハードに近い分野                                  |
| 事業創出支援機関 | VC、インキュベータ、法務関連等高度サービス集積                                | 研究開発施設（KAIST, ETRI）                           |
| 政府関与     | 集積は自然発生。<br>高速通信インフラ整備、投資環境整備、ソウル市内創業保育施設400。           | 70'sから研究開発施設集積、90'sに事業化支援機能追加、テジュン市内創業保育施設370 |

資料：日本政策投資銀行北海道支店

【テヘランバレーとテドクバレーの関係図】



資料：日本政策投資銀行北海道支店資料より作成